

(成果報告書)

「和菓子バル」イベントを通じた、大井川川越遺跡のPR手法に関する研究

静岡産業大学 経営学部 中山研究室

教 員：客員教授 中山勝

参加学生：村上圭、中谷咲穂、新聞美月、松本一花、
志村茉音、岩本華怜、勝間田莉子、鈴木玲奈
伊藤信治、風間涼介、新井涼、深澤陸斗、
河合駿、飯塚泰斗、冬木康嵩、杉山海哉、
木曾幸太郎、海野健太、吉田聖夜、勝岡俊樹、
長原颯也

1 要約

和菓子バルイベントについては、イベントの企画段階から参画し、学生の企画による蓮台越し体験、クイズラリーを実施することにより、イベントの新たな可能性を探り実践した。また、イベントの開催前に島田市内の和菓子店を訪問して、和菓子の販売方法やPR方法について検討し、イベントで実践した。

川越遺跡のPR方法については、世界文化遺産韮山反射炉や国指定史跡江川邸などを活かして観光PRで成功している伊豆の国市の先進事例を調査し、単体の歴史資源のPRだけではなく、地域の人的資源、歴史資源、物産等の資源のコラボレーションによる地域ブランドの形成が重要であることがわかった。

このため、島田市緑茶化計画を進める島田市においては、川越遺跡と和菓子だけでなく、お茶も加えたコラボレーションによる地域ブランドの形成が必要であると考え、島田市内の御茶関係の観光、体験施設を調査し、川越遺跡と和菓子店とお茶の体験・観光施設をめぐる周遊観光のアピールが有効であるとの結論に達した。当面の取組としては、和菓子バルイベントを和菓子だけでなくお茶も加えたイベントとして企画すること、さらに、恒常的な取り組みに向けて、島田市内の歴史資源とお茶関係の体験施設、和菓子店を巡るクイズラリーなどを企画・運営するための地域の体制づくりを提案した。

2 研究の目的

本研究は、「和菓子バル」イベントを通じた大井川川越遺跡のPR手法を検討し、川越遺跡を観光資源として活用していくための方策を提言することを目的として研究を行った。

3 研究の内容

(1)和菓子バルイベントにおける学生企画のイベントの実施

令和5年11月3日に島田市が主催して開催された「和菓子バル」イベントについては、イベントの企画段階から参画し、学生の企画による蓮台越し体験、クイズラリーを実施することにより、イベントの新たな可能性を探り実践した。また、イベントの開催前に島田市内の和菓子店を訪問して、和菓子の販売方法やPR方法について検討し、イベントで実践した。

①学生による蓮台越し体験の企画・実施

川越遺跡の歴史的な意味をイベントの来場者にPRするため、学生が島田市博物館とともに蓮台越し体験を企画し、イベント当日に実施した。

②クイズラリーの実施

来客が島田市博物館や川越遺跡を回遊するようにするため、学生がクイズラリーを島田市に提案し実施した。学生が川越遺跡に関するクイズの問題と答えを作成し、会場の各地にクイズポイント

を設置し、クイズに答えた人は、大学の備品のガチャガチャ機を使って抽選ができる仕組みにした。景品は和菓子店等が提供する割引券等を配布した。

③島田市が行うアンケートの実施

クイズラリー合わせて島田市が行うアンケート調査も実施した。アンケートに回答いただくために、クイズラリーとは別に景品の抽選を行った。

④SNSを活用した和菓子バルイベントのPR

和菓子バルイベントへの集客を図るため、学生が和菓子バルイベントのアカウントを使って、SNSを活用して情報発信を行った。

⑤会場案内、和菓子の委託販売の実践

イベントの開催前に島田市内の和菓子店を訪問して、和菓子の販売方法やPR方法について検討した。イベント当日は、学生が着物を着て、会場の設営、会場の受付案内所での会場の案内を行うとともに、和菓子の委託販売を実践した。

[和菓子バルイベントで着物を着て活動した学生]



和菓子バルイベントで活動した学生



学生企画の蓮台越し体験

(2) 川越遺跡を観光資源としてPRするための方策の検討

川越遺跡を観光資源としてPRする方策について検討するため、川越遺跡の現地調査及び和菓子店等のヒアリングを行うとともに、世界文化遺産蘆山反射炉や国指定史跡江川邸などを活かして観光PRで成功している伊豆の国市の先進事例を調査した。さらに、島田市内の御茶関係の観光、体験施設を調査し、他の地域の事例を参考にしながら検討を行った。

①島田市博物館の職員の方々のヒアリングと意見交換

11月3日の和菓子バルイベントの開催までに学生と教員が班に分かれて川越遺跡を訪問し、島田市博物館の職員の方々のヒアリングを行うとともに、意見交換を行った。

②大井川川越遺跡の調査

11月3日の和菓子バルイベントの開催までに学生が班に分かれて、川越遺跡に残る川会所、番屋などの建築物や展示の内容の調査を行った。また、建物を利用している織物体験の経営者や着物レンタルの職員の方のヒアリング調査を行った。

③島田市内の和菓子店の訪問調査

和菓子バルイベントに参加する和菓子店のうち、市街地にある店舗を訪問し、和菓子の調査を行った。

④伊豆の国市の先進事例の調査(12月3日)

島田市の国指定の川越遺跡を観光資源として活用してPRする方策を検討するため、伊豆の国市において世界文化遺産登録された「韮山反射炉」や国指定重要文化財の「江川邸」、大河ドラマ関連の「願成就院」を調査した。伊豆の国市観光協会の稲村会長に講演をいただくとともに、ボランティアガイドの方々から、3つの施設で丁寧な説明をいただいた。講演や説明を受けながら現地を調査した。



観光ボランティアガイドの方の説明



伊豆の国市観光協会長の講演

⑤島田市内のお茶の体験型観光施設の調査(2月5日)

伊豆の国市の先進事例を調査し、単体の歴史資源のPRだけではなく、地域の資源のコラボレーションが重要であることがわかった。このため、島田市緑茶化計画を進める島田市においては、川越遺跡と和菓子だけでなく、お茶も加えたコラボレーションによる地域ブランドの形成が必要であると考え、島田市のkadode ooigawa直営のお茶関係の体験型観光施設である「茶寮・お茶漬け」において、施設を貸し切って地元のお茶と島田市内の和菓子、お茶漬け等の観光客向けの軽食メニューについて職員から説明を受けながら体験を行った。さらに、お茶関係の博物館であるふじのくに茶の都ミュージアムにおいてお茶に関する調査を行うとともに、外国人観光客が過半数を占める御茶室において職員の説明を受けながら体験型観光の調査を行った。



kadode ooigawaのお茶の体験観光の調査



ふじのくに茶の都ミュージアムの調査

4 研究の成果

(1) 当初の計画

本研究は、「和菓子バル」イベントを通じた、大井川川越遺跡のPR手法の提案を目的としている。このため、計画では、川越遺跡及び島田市内の現地調査、ヒアリングを行い、実際に和菓子バルイベントで学生がイベントを企画・実践するとともに、先進事例を調査し、イベントの新たな取り組みの可能性やPR手法の改善策を検討し提案する計画であった。

(2) 実際の内容（Aは予定どおり、Bは一部修正、Cは中止など）とその理由

A 計画した内容を予定どおり実施した。

(3) 実績・成果と課題

学生の企画による蓮台越し体験、クイズラリーを実施することにより、イベントの新たな可能性を探り実践した。また、イベントの開催前に島田市内の和菓子店を訪問して、和菓子の販売方法やPR方法について検討し、現地での販売の際のPRや説明版の作成、クイズラリーの内容に反映するなど、イベントで実践した。

伊豆の国市の調査において、歴史資源を生かして観光誘客に成功するためには、現地で価値を知らせる人材と、江川太郎左衛門、北条氏、運慶といった歴史上の人物の活用、パン祖のパンといった物産をコラボレーションしたブランドづくりが成功の秘訣であることがわかった。

このため、島田市緑茶化計画を進める島田市のkadode ooigawa及びふじのくに茶の都ミュージアムにおける体験型観光の状況を調査し、川越遺跡と和菓子だけでなく、お茶も加えたコラボレーションによる地域ブランドの形成が可能であるとの結論に達した。

島田市には、宿場町や大井川川越遺跡などの歴史資源、お茶関係の体験型観光施設、和菓子店の集積といった地域資源が豊富にあるが、これらの地域資源のコラボレーションが課題である。

(4) 今後の改善点や対策

和菓子バルイベントは、和菓子と川越遺跡のコラボレーションがされているが、島田市緑茶化計画という地域ブランドを生かしていくため、お茶も加えたイベントとしていくことが考えられる。

5 地域への提言

和菓子バルイベントにおいて、お茶と和菓子、歴史資源のコラボレーションを社会実験として実践すること、及び恒常的な取り組みに向けて、島田市内の歴史資源とお茶関係の体験施設、和菓子店を巡るクイズラリーなどを企画・運営するための地域の体制づくりが必要である。

6 地域からの評価

和菓子バルイベントにおいて学生が企画した蓮台越し体験、クイズラリーは、来場者に好評であった。また、和菓子の販売においても、来場者に大変、喜んでいただいた。本研究を進めるに当たり、島田市博物館の職員の方々、川越遺跡の周辺の方々、和菓子店の方々、お茶関係の体験型観光施設の方々とお話する中で、地域の資源のコラボレーションの必要性の認識を共有することができた。